

文部科学省で行っております国際協力について説明いたします。教育協力というのは教育分野の国際協力です。

文部科学省による政府開発援助ODA（の規模）は外務省、財務省に続いて第三番目です。三番目といっても400億円強の予算の97%は留学生交流に使われており、残ったところでいろいろな活動をやっています。これらの予算による活動以外にも国際協力機構JICAさんとか国際協力銀行（JBICさん）などと協力した活動を実施しています。（連携活動に関する）実際については後ほどJICAさんが説明されると思いますので、（ここでは）特に文部科学省の国際課（国際協力政策室）の方でやっていることを中心に説明します。大きく2つありまして、「現職教員の特別参加制度（の運用）」と「国際協力イニシアティブ（の実施）」です。後者の方はわが国の教育関係者の方々が海外で活動するにあたってそれを支援することを中心に行っています。協力隊関係のことでいいますと、先生方が派遣前、派遣中、そして帰国後にいろいろなことをされる際にお手伝いするというようなことをやっています。今のように、派遣前に研修を行うということも我々の方でやっていることの一つです。

国際協力イニシアティブの教育協力拠点構築事業に関する個別具体的な話、特に皆様方と関係が深い青年海外協力隊派遣現職教員の支援に関する話の方は、明日事業を委託している先生方から（直接）説明していただくこととなります。この領域では、昨年度7件の課題に取り組んでいただきました。課題毎に、どんな取組をしていたのか、どんなことをサポートしようとしているのか等について説明していただくことになっています。

我々としては、帰国後に皆さんが、例えば、国際理解教育や環境教育の中で、（皆さんの）経験を日本の教育にフィードバックしていただきたい期待しているということもありまして、（皆さんのこうした取組を）ご支援することを考えています。皆さんの（派遣）職種としては、「小学校教諭」、「理数科教師」、「養護」、「体育」が多く、この中の95%ぐらいに相当すると思います。そういう方を中心に、現地での活動のサポートを今年度も引き続きやりたいと思っていますし、今年度は、特に、帰国された方がいろんな活動をされるにあたっての支援を強化していきたいと考えています。

それで橋口さんの方からもいわれていましたが、協力隊（事務局）の方で帰国現職教員の方にアンケート調査を行っていただきました。その結果を見ますと、「派遣中に現地から日本に向けていろんな活動を行った」という方が全体の7割ちょっといらっしゃいます。

皆さん現職と言う事もありますし、日本の学校と強い関係をお持ちなのだと思います、（派遣中も）それを生かされようとするだろうと思いますので、そうしたことをされる際にお手伝い、ご支援等ができればと思います。時間の許す限りこうした活動をおやりいただければと思います。

それから、帰ってきてからの様子をアンケートの中で聞いたところ、「本当はいろんな経験のフィードバックしたいのだけれど、現実としては多忙な（日々の生活）中でなかなか（そうした活動が）できない」という人が多いようです。しかし、そういう中でも、帰っ

てきた後に教育経験を活かす活動をされている方もおられまして、そういったことを皆さんにも期待したいと思います。

この現職教員の特別派遣制度というのは、もともと外務省・文科省・JICA・教育委員会等で一緒に作った制度ですけれども、本来の期待としては皆さんの経験が増えること、帰ってきた後にそういった経験のフィードバックをしていただくということがあり、(延いては)日本の教育が少しでもよくなるということが期待されております。そういった意味でも、帰ってこられてからそれらの経験をフィードバックしていただければと考えます。特に、小学校の教員の方は総合的な学習の時間等があると思いますので、こういったところでうまく経験をフィードバックしていただければと思います。

それからもう一つ、アンケートの結果によりますと、この事業に参加したことに満足して帰ってこられた方が多いです。現実的には皆さん、「非常に良かった」と「まあ良かった」を合わせると100%の方が満足しておられています。そういった意味では、これから二年近くを海外で過ごされるわけですが、帰ってこられた時に「行って良かったな」と思われるような活動を(できるだけ多く)していただければと思います。

こういった現職の制度ができる前は、(教職を)辞めて行かれたり、(多少無理をして)派遣法によって行くしかなかったのですが、こういった制度ができて皆様現職のまま行けるようになっております。是非とも現職であることの強み、または経験を活かして活動され、さらに帰ってこられてからはそれを日本に戻すということをやっていただければと思います。そのことを我々もまた支援させていただきたいと思っています。行かれています間もいろいろこちらから連絡させていただくこともあると思いますが、皆様方の方から連絡いただいて、こういったことをもっとやったらいいのではないかとということがあれば教えていただきたいと思います。

2年近く、長いようで短いと思います。元気に活動していただき、帰ってきた後もそれを日本の教育にフィードバックしていただければと考えます。

どうもありがとうございます。

「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業

開発途上国における開発協力のため、大学・NGO等、我が国の教育関係者等が有する教育研究上の知識や経験を整理・蓄積するとともに、我が国の知見を踏まえた開発協力モデルの構築などを行うことにより、国内外の援助関係者が開発協力の現場で容易に活用可能かつ活用効果の早期発現が期待できる成果群を形成することを目的とする。

教育研究に関する 我が国の経験の活用

基礎教育および高等教育を対象とする。

- ・教育研究に係る我が国の知識や経験の整理・蓄積、理論化やモデル化、実証を通じた開発協力モデルの構築
- ・援助リソース（高度人材育成機能や研究成果等）の把握とNGO等を含む援助機関との連携体制の構築

【活動例：基礎教育や高等教育の対象分野】

- ◆教育行財政
- ◆教員研修
- ◆学校保健教育
- ◆食農環境教育
- ◆女子教育
- ◆ライフスキル教育
- ◆教育改善 等

青年海外協力隊 派遣現職教員の支援

小学校教諭、理教科教師、養護、体育の4職種で派遣される教師の活動支援を主な対象とする。

- ・派遣現職教員の派遣前や派遣中の活動を対象にした教育的観点からの支援
- ・帰国現職教員が実施する総合的な学習（国際理解教育や環境教育等）ほか教育関連の活動を対象にした支援

【活動例：派遣現職教員が現地で担当する主な活動分野】

- ◆理科実験
- ◆図工
- ◆保健衛生
- ◆音楽
- ◆体育
- ◆学校行事・特別活動 等

成果品関連アーカイブスの管理

事業全体に係る成果品の収集と管理、関連資料の収集と管理、広報等の実施を担当する。